

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年 4月14日

【評価実施概要】

事業所番号	1070500663
法人名	特定非営利活動法人 沙羅林
事業所名	グループホーム 沙羅林
所在地	群馬県安中市松井田町下増田966-5 (電話) 027-393-3170

評価機関名	サービス評価センター はあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町2-29-5 コミューン100-1B
訪問調査日	平成20年3月26日

【情報提供票より】平成20年3月6日事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 12年 4月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 5 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 3.9 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り 1階建ての 1階 ~ 階部分
------	---------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	800 円		

(4) 利用者の概要(3月6日 現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	1名	要介護2	4名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2			
年齢	平均 83歳	最低	73歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	櫻井内科医院、碓氷病院、須藤病院、吉井歯科診療所
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然に恵まれ季節の移り変わりが身近に感じることができるホームである。長年の経験と実績のあった管理者の交代により、ホームのあり方や運営についても、職員一人ひとりが基本に立ち返って検討していこうとしている。職員は笑顔を心がけ、利用者が元気に過ごしてもらえるよう支援している姿勢がうかがえる。今後は他のホームとの交流や職員研修にも新たな取り組みを行いケア技術のさらなるレベルアップを期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果については、館内に掲示はしているが職員会議等がないため全体での検討は行っていない。改善できることは取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者の交代もあり、今回の自己評価では職員は参加せず管理者と事務職員が作成した。今後体制が落ち着く中で全体討議の場を持ちたいとの考えである。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、2ヶ月に1度定例で開催しており、行政職員、区長、民生委員、地域住民、管理者、事務職員などがメンバーとなっている。会議の内容はホームからの事業報告や情報交換等である。今後は明確な目的をもった内容にし、有意義な会にしていきたいとの前向きな姿勢である。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>職員が交代で一人ひとりの日常生活の様子を記録したお便りを毎月家族宛てに送付している。家族には月に1度は面会をお願いし、意見を出してもらおうように働きかけてはいる。以前には半年に1回家族会も開いていたため、今後は再開も検討し、積極的に家族が意見を出せるようにしていきたいと考えている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の祭りにはいつも参加している。町内会の区費も支払っており、広報誌などは配布されている。市街地とは違って近隣の日常的な付き合いはなかなかもてないが、以前は年に2回ホームのお知らせなども発行し、地域の理解を深める努力もしてきた。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	老人荘時代から前管理者が持ちつづけていた思いを理念として掲げている。	○	地域との関わりを意識しながら、具体的でわかりやすく誰もが身近に感じる理念を作り上げたいという職員の思いを実現していただきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	以前は管理者が実践しながら示していたが、現在は1日2回の申送り時に管理者・職員が理念を確認しながら実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ごみ出しの関係で町内会には区費を支払っているが、回覧版は回ってこない。広報誌は配布されている。地元神社の祭りなどに参加して、出来るだけ地域の人との交流の機会を作るよう努めている。以前は春秋にホーム便りも発行していたが、現在は中断している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部調査の結果はホーム内に掲示しているが、職員会議等での検討はしていない。利用者のケアについての改善点は直ぐに取り組んでいる。今回の自己評価は管理者と事務職員が作成し職員は参加していない。	○	サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、全職員で話し合い、職員の意識合わせ、振り返りにより自己評価を作成することが望まれる。又外部評価の結果を踏まえ、会議等で話し合い、改善に向けて努力することを期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、市の職員と区長、民生委員、地域住民等の参加により運営推進会議を開催している。内容は主に事業所の状況等の報告や情報交換である。今後は単なる情報交換ではなく明確な目的をもった内容を設定し、有意義な会議にしていきたいと思っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在、事業委託等は受けていないが、市の担当者を訪ねて分からないこと等の相談をし、サービスの質の向上に反映させている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時にホームでの暮らしぶりや健康状態についてお知らせしている。又、毎月ホームでの生活状況を知らせる個人向けの便りを職員が交代で作成し、請求書と一緒に送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に一度は家族に来所してもらうようお願いしており、来訪時には気軽に話の出来る雰囲気作りに配慮している。以前は半年に1回家族会を開いて意見を聞いていたが、現在は中断している。再開も検討中。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この1年間は職員の異動はなかった。異動や退職は1ヶ月前には申し出るようにしており、欠員の出ないように配慮している。新しい職員に対しては日々の生活の場で指導している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者の考えで新入職員は高校卒業者を採用し、管理者自らケアの実際を教えていく方法をとっていた。実践者研修や基礎研修には参加させている。	○	新入職員に対して、ホームとしての初期研修プログラムをマニュアル化し、いつでも見直しや振り返りができるよう検討してみてはどうか。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加したり、市内の同業者に交流を働きかけている。盛んな交流とまではいかないが、今後も継続していきたいと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族に施設を見学してもらい、緊急時以外は本人に宿泊や日中の体験をしてもらい、本人の意向や他の入所者との関わりを見極めながらサービス利用につなげている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者は一方向的な関係にならず、レクリエーションや会話を通して昔の話を聞いたりしながら、日々穏やかに過ごせるような関係を築いている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	転倒防止に配慮しながら、強制は行わず、日ごろの言動等から利用者の希望・意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃の生活状況を職員から聞き、ケアマネが中心になって介護計画を作成している。家族にもその都度確認している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	通常は3ヶ月ごとに見直しをしているが、状況の変化に応じて新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況に応じ、医療機関への移送や対応をはじめ、行政手続きの代行等の支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。かかりつけ医が第1・2金曜日に往診をし、必要に応じて週1～3回訪問看護も利用している。緊急時には受診もできる体制である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に、重度化した場合や終末期のあり方について話し合い、ホームとしては看取りも行っていることを話している。実際には具体的な段階で家族・本人・医療機関・職員が話し合いを重ね、決定している。ホームでの看取りの場合には、24時間体制を組んで支援している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録等の管理は本人・家族の同意の上でなされている。廊下を挟んで居室・トイレ・浴室が並んでおり、カーテンを利用しながらプライバシーを損ねないように配慮はしているが、トイレや居室内が来訪者にとっていつでも見渡せる状況にある。	○	老人荘時代からの建物のため対応に苦慮している様子がかがえる。トイレや居室の入口については利用者の意向も踏まえ、更なる工夫を期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は一人ひとりのペースを大切にしており、強制しない生活支援を心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士がたてたバランスの取れた献立に加え、希望にそったメニューや畑で取れた季節の野菜をとり入れた食事が提供されている。ご飯は咀嚼の危険を配慮し、おかゆである。また、法人の考えで利用者と一緒に職員は食事は摂っていない。	○	おかゆでなくても可能な利用者がある場合については、検討してみてもどうか。法人としての考え方もあろうが、他のホームでの取り組みなども参考に、一緒に食事を取りながら楽しめる工夫を期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一般浴槽もあるが、現在は寝台式の浴槽を利用し、週2回の入浴であるが、毎日午後ゆっくりと時間をとって支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自由に過ごしているが、転倒の危険性を重視し、洗濯物たたみなど座って行える役割が中心である。	○	転倒の防止は今後も必要だが、下膳の際茶碗一つでも自分で下げたいと思っている利用者もいると思われる。役割が喜びになるような支援も検討してみてもどうか。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日買い物に出かけているため、希望者は一緒に出かけている。4月以降は食材の購入方法が変わるため、外出の機会をどのように作って行くか検討する予定になっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関も居室も鍵はかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1回の通報訓練と年2回の自主訓練を計画している。訓練の様子は写真に残している。近隣との協力は今のところ取れてはいない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がたてたバランスの良い食事を提供し、水分とともにチェック表につけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂とは別に日当たりの良いレクリエーションの部屋もある。庭にも木製のベンチが数多く設置されており、季節の移り変わりが身近に感じられる工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い思いの家具を持ち込んでいる。洋服は季節ごとに家族に入れ替えてもらうようお願いし、居心地がよく過ごせるよう協力してもらっている。		